

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



ひろさと分教会

(平成24年8月19日 新築奉告祭)

立教179年
7月号



支部長様と記念撮影



明るい笑顔いっぱい!

こかん様に続く会を
終えて

女子青年

6月4日から5日にかけて、女子青年でこかん様に続く会をさせて頂きました。今回は今まで何度も計画を練っては諦めざるを得なかった、念願の十三峠越えをさせて頂く事が出来ました!当日は天気にも恵まれ、雨に降られることなく参加者全員で切り切ることができ、本当に感謝です。その後は、ご本部へ参拝へ行き、十三峠の疲れを癒すべく奈良健康ランドへ行かせ

て頂きました。夜は担当奥様たちが作って下さった食事で会食をし、就寝。2日目は支部長様からお話を頂き、来る女子青年大会に向けてグループワークをさせて頂きました。その後は、お楽しみ行事として室内オリンピックをしました。思いの外盛り上がり、参加して下さった人達も楽しく過ごしてもらえたようで、良かったなあと思いました。岡山会場笠岡大教会での女子青年大会が11月6日にあります。ぜひご参加下さい。(こかん様に続く会参加人数 23人)

(女子青年委員長 上原理子)

天理教梅華会
台湾親善訪問団
報告

海外部

海外部

私は6月5日から8日にかけて、第43回天理教梅華会台湾親善訪問団に、上原志郎先生と参加させて頂いた。梅華会とは、日台親善と天理教の伝道支援のために1967年に設立された天理教有志の会で、年1回の台湾親善訪問を通じて車いすなどの寄贈をはじめ、様々な日台交流活動を行ってきている。(現在の梅華会会長は、敷島大教会前会長・山田忠一先生。それ以前は、笠岡大教会3代会長上原繁雄先生)

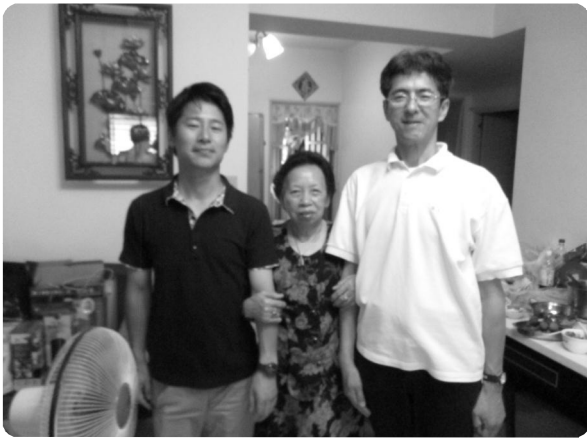
現地ではまず、台湾政府内政部を表面敬訪問し意見の交換が行われた。その中で、台湾が目指す国作りと天理教の陽気ぐらしには、共通する部分が多くあるので、これからもより深い友好関係を築いていきたいと、内政部政務次長が述べた。また、台湾政府内政部では宗教法人法の作成を進めており、日本の宗教の天理教を参考にするため、内政部から数人がおちばにかえった事もあるという話題も上がり、おちばの印象を親しみ深く内政官員がそれ



外交部の方々と懇談

ぞれ話した。

また台湾政府外交部亜東関係協会(日本との国家間事務を担当)主催の昼食会も行われた。外交部とは日本で言うならば外務省で、外交部が梅華会のために席を設けたのは、ごく最近であり、長年の友好関係の賜であると聞かせてもらった。続いて夜には、台湾政府関係者・現地教友などとの懇親の場がもたれ、台湾の教会長・ようぼくの方々とお話をさせて頂き、道の広がりとその現状の一端を知る事ができた。



笠岡のようぼく宅訪問

現地2日目は、志郎先生と宮本正明氏(廣町分教会)と、笠岡につながる3組のようぼくの方々を訪問した。みなさん一様に親しく接して下さい、おさづけの取り次ぎや、日々の様子を聞かせて頂き、大変有意義な時間を過ごした。

今回訪台して感じたのは、両国の時の政権が変わろうとも、梅華会が陽気ぐらしを目指して50年近く活動を続けてきた歴史と、そこから築かれた友好関係、また現地教友との繋がりが。さらには、海外布教の広がりや課題も感じた期間となった。

(陶山分教会長 上原繁次)



「こどもおちばがえり」で楽しい思い出を

育成部(吉岡壽部長)では、6月21日祭典終了後午後1時15分から「よふぼく勉強会」を開催、約20人が参加した。

「こどもおちばがえり」をテーマに講師の下田誠輝神村分教会長は、同教会では、団体列車当時の日程を変える事なく、今でも3泊4日でこどもおちばがえりの募集に取り組んでいる。費用や手軽さから1泊や2泊で計画する

よふぼく勉強会開催
テーマは「こどもおちばがえり」
 6月月次祭後
育成部

教会が多くなってきているが、費用面でも高いと言われた事はないし、3泊する中で初めて参加してくれる子どもは、他の子どもたちと打ち解け仲良くなる事ができ、何よりも夏休み期間中に4日間も子どもの面倒を見てくれると、父兄から喜ばれている。

募集は、主に兄弟たちが中心になって町内会やPTAなどで知り合う人たちに声をかけ、参加する子どもたちはほとんどの親が信仰のない人たちなので、3つの約束の実行と朝のおつとめだけは徹底して、あとは楽しく過ごしてくれる事に重点を置いている。そして中学生になると参加回数に拘らず、本部のわがき少年ひのきしん隊の練成会に参加を促して、夜のおやさどパレード出演に楽しみを持たせる。

数年前から、教祖130年祭の年までは大型バスでの参加を心定めていて、とにかく子どもたちには記憶に残る楽しい思い出をたくさん作ってもらって、次の年にまた友だちを誘って参加してくれたらと、今年も兄弟力を合わせて頑張っていますと話された。その後、質疑に答えられ午後2時に終了した。

青年会笠岡分会

あらかとうりよう入門塾

日時：8月15日(金) 午後5時開講 ～ 8月16日(土) 正午頃解散
 会場：大教会
 対象：高校生層男子
 内容：大教会長様お話、レクレーション、親睦バーベキュー、ひのきしん等

※ 学生生徒修養会参加者はそのまま参加できます
 ※ 参加無料
 ※ 一日だけの参加も可能です



真剣に「感話」

6月22日、婦人会笠岡支部(上原きよ紀支部長)では大教会において、委員長後継者講習会を開催した。

次の婦人会を担う若き委員長の後継者(10人受講)に対し支部長は、代々の積み重ねを経て、現在結構にして頂いているという有り難さに気付かせて頂ける心を作り、親の心の聞き損じ、受け損じのない心を作ることが大切。又、活動方針を心の目安として通り、

**委員長
後継者講習会
開催
婦人会**



心も音も揃えて

日々起こる事を我事として受け留めて通つてほしいと話された。



お茶接待を体験

当日22日は梅雨時の雨を覚悟していたものの曇り空で過ごし易い中でのひのきしんに皆安堵した。朝食後7時30分からいつも詰所の修繕などでお世話

して6人で笠岡詰所に向かった。

前日21日の大教会祭典後、各担当会議を終えた後に看板や模擬店で使用するテントや冷凍庫を積み込んだトラックと、参加者のワゴン車とにそれぞれ分乗して午後4時ごろ大教会を出発して6人で笠岡詰所に向かった。

こどもおちばがえり実行委員会(佐藤道孝実行委員長)では、6月22日看板取付けひのきしんを詰所勤務者などを含め11人で行った。

**詰所看板
取付けひのきしん**

続いて2人の受講者が自身の信仰についての感話。ミニ作法の勉強会として、客間でのお茶接待の作法について体験しながら勉強した。

午後からは、女鳴物の勉強会として、三味線、胡弓、調弦と分かれてお手直しを受け、最後に合同でよろづよ八首を演奏し、和やかなうちに閉講した。



になるノースアメリカの佐藤さんの手伝いもあり、また勤務者や教養掛の先生方にもひのきしんに加わって頂き南棟2階の看板取付けと玄関ソテツ周辺の鋼管骨組み、看板設置と作業は順調に進みほぼ11時には終了でき風呂・昼食を頂いて詰所を出発した。



看板取り付けに勇む

母親講座開催

テーマ「引きこもり・不登校」

婦人會

婦人會笠岡支部(上原きよ代支部長)では、7月5日午前10時から笠岡大教会神殿で、講師に杉江健二先生(甲賀大部属、美張分教会会長・名古屋明誠高等学校院長・青少年養育支援センター陽気会代表)を迎え、「引きこもり・不登校」をテーマに母親講座を開催、138人が参加した。

開講に先立ち上原きよ代同支部長は「婦人會本部から、教区活動として各支部ごとに年、2回活動をして欲しいとのことから、今日は大勢の方にお集まり頂いて、小規模では聞けないお話しを聞く機会をつくりました。『引きこもり・不登校』で悩んでいる方にお聞きとり頂き、少しでも家庭で陽気ぐらしが生まみ出して頂けるように、心の勉強をして頂けたら有難い」と挨拶。

その後、杉江先生は参加者に配布されたテキストに沿って話を進められた。「引きこもり・不登校」について文科省、厚労省での分析また「ニート」についても



杉江先生のご講義

説明。不登校数を小、中、高校生別に示され、合計は17万353人に上り、保健室登校生徒は10万人、引きこもりは70万人、ニートは60万人で合計167万人になると実数を挙げて話された。

「引きこもり・不登校」児童の問題行動について。やっつけはいけないこと。出来ればやらない方が良いこと。やるべきこと——などについて説明された。

そして、問題行動への対応については。親がやっつけはいけないこと。親の葛藤。基本姿勢。親の本音を上手く伝える。子どもが安心する伝え方(親の本音を上手に伝える)——など実例を挙げて話された。

ほめられることが、神様から与えられた贈り物であり、ほめる・ほめられることが、陽気ぐらしに繋がると話され、

最後に、青少年の支援は未来を創る尊いおたすけであり、「引きこもり・不登校」は、ますます深刻な社会問題になってきている。全ての子どもたちに「活かしの道」を与えて頂きたいと結ばれ、午後0時10分閉講した。

講義終了後、昼食・タンザニア支援のバザーがあり、また、4人が先生に相談された。

第74回 笠岡大教会 英語講習会

ネイティブスピーカーと英語を楽しもう!

会場	・井原市社会福祉協議会芳井支所 (7日 夕刻まで) (岡山県井原市芳井町吉井4103-2 ☎0866-72-1366) ・笠岡大教会
日程	平成28年8月7日(日)～8日(月) (1泊2日) ・8月7日 8:30 大教会 集合・受付 9:00 芳井支所 出発(マイクロバス、ワゴン車) ・8月8日 15:00頃 大教会 集合(駐車場:芳井小学校) 解散
内容	外国人ゲストと楽しむ英会話、目標別によるクラス分け、授業、テーブルマナー、宝さがし、ゲストによる講話、宿題をする時間、英語スキット、布教英会話など
対象	小学4年生以上の学生、青年・女子青年層～大人
募集人員	30人程度
参加費	1,500円
応募期間	平成28年7月31日まで

談話室



「布教の家」を終えて

稲倉分教会 北川 茂 久

布教の家を出ての原稿依頼を頂きまして、4ヶ月経った今、改めて布教の家での1年間を終えての気持ちを持ち返るありがたい機会を頂きました。

教祖130年祭三年千日の2年目に縁あつて、京都から岡山に来させて頂きました。

夫婦となり、初めて迎える年祭に2人で何ができるか相談し、5年後10年後ではなく、一番一緒に過ごしたい今のこの時間をお供えする事を決め、親に相談した所快く送り出してくれ、私は布教の家岡山寮へ行かせて頂きました。

結婚するまで信仰家庭で育ちました。が会社勤めをしており、にいがけは全くしたことがありませんでした。布教の家という環境のお陰で臆することなく、にいがけに毎日出る事ができました。1年間歩いて、又寮生活を通して感じたことは、自分はもう少し

良い人間だと思っていました。が、全くそんな事はなく、むしろ、ちよつとした事に腹を立てたり、高慢になってしまつたり、些細なことでも苛立つ心の狭い自分に気づく事ができました。しかし、こんな自分でさえ親神様、教祖のご守護、お導き、親々の徳で、たくさんのお出合いを頂き、用木として人助けの御用に使用させて頂く事ができました。

自分の癖性分に少しでも気づく事が出来たので、使つて頂きやすい用木になれるよう努力し、自分の中に教祖がご不在にならないよう日々通らせて頂きたいです。また、1年間教会を出させて頂きましたので、今はしっかり伏せ込み、どんな事も理づくりと思ひ、まず両親に喜んでもらえる様通らせて頂きたいです。

初めてのひのきしん隊

笠岡大教会 上原 孝

今回、上原明勇、杉原善朗、中村剛史、福元賢一、岡崎治喜、北川茂久、田中丈博、山口晃治、上原孝の計9名でおやさとしん青年会ひのきしん隊第81回隊に入隊させていただきまし

た。

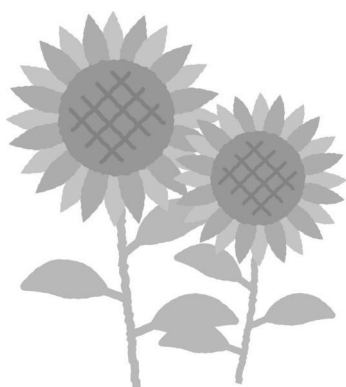
6月1日から24日までの24日間、私たちは百母屋で寝泊まりしました。ひのきしん隊では、班ごとに分けられていて班ごとで一部屋を使います。今回は笠岡の9人に加えて、筑紫分会6名、日光分会6名、鎮西分会2名の計23名がこの24日間をともに通りました。

ひのきしん隊の主な一日の流れとしては、朝起き、本部にて朝づとめをします。その後、朝食を済まし、百母屋に戻つて掃除をし、ひのきしんに行きます。ひのきしんの内容は、おぢばがえりの準備や草刈り、テントの清掃など様々な事をさせて頂いて頂きました。ひのきしんを終えて、夕食を食べて百母屋に戻ると自由時間になります。自由時間の後、夜の修練があります。そして一日の最後にまなび、おふで書き拝読、夜の点呼を終えて就寝となります。

隊期中は主に午前午後とひのきしんに出させて貰いましたが、それ以外にも夜の修練で選択修練というのがあって、私は雅楽の笙を選択しました。実際にしてみると笙という楽器は吸って鳴っている状態にしなければいけない

かつたので、息が苦しくなり大変でした。ですが、雅楽自体初めてだったのでとてもいい経験になりました。他にも隊期がちょうど半分を過ぎた頃、ソフトボール大会がありました。一回戦、先制点を取られてしまいました。北川さんのフライングプレイで何とか同点に追いつき勝負の行方はじゃんけんで決めることになりました。結果は、相手チームの勝ち。早速優勝を逃してしまいました。さらに班内の友情が深まったのを感じました。

今回、私は初参加で少し不安なところもありましたが、同じ班のみなさん方にいろいろと教えていただくことや学ばせていただくことがあつて勉強になりました。楽しく通ることができました。また、誰もけがすることなく無事に通れて本当に良かったです。



タンザニアおたすけ訪問

弥高山分教会長 岡崎 治 喜

私はこのたび第八回目となるタンザニアおたすけに同行させて頂いて貰いました。今回のメンバーは上原志郎先生と芳井分教会の佐藤和代奥様、そして私の三名でした。

今回このおたすけに同行させて頂いたのも、私の希望からでありました。

私はアフリカについてテレビやインターネット、様々な情報源である程度の事を「知識」として知ってはいましたが、実際に自分の目、耳、肌で感じ取らなければただ分かった気であるだ



インド洋からおちばに向かい
現地の救済を祈り12下り

けなのではと思ひ、そしてこの訪問を通じて、自分に何が出来るのか、どのように思案させて貰えば良いのかを得る事ができるのではと考えたからです。実際私がタンザニアについて行ったところで、何が出来るというわけでもなく、現地のようにぼくの方や、志郎先生、和代奥様に頼りっぱなしでありました。ただ自身の目的である現地の状況を肌身で感じるといふことは存分にさせて頂きました。

タンザニアの状況は、私が感じた限りではありますが、不衛生で貧富の差は甚だ激しく、交通事情も悪く、日本



ソングアのオレスのスタッフと



国会議員のリジキ夫人がサポートする
農場プロジェクトのメンバーと

での生活に慣れている人には耐えがたいものがあるなと思ひました。衣服もぼろぼろで、靴がなく裸足で歩くのが当たり前、栄養失調でお腹がぼつこりと膨らんでいる子供達、病気で働く術がなく物乞いをして生計を立て、支援物資には我先にと飛びついたり、大人が年端もいかなない子供達にめ玉を自慢している姿、交通違反は賄賂で解決し、そしてその賄賂目的の為に取り締まりをする警官：挙げればきりは無いのですが、このような姿を見て、どうにかなんとかしてもこの国の方々にたすかって頂きたいなという思いに駆られました。しかしただついて行っている

だけの私に何が出来るのかと無力感に襲われもしましたが、志郎先生に「今回はこのメンバーじゃないといけない理由があるから、治喜も引き寄せられて今この場にいるんだよ」といった声を掛けていただき心が救われました。そして私が今回引き寄せられた意味の1つにその後すぐに巡り合わせて頂きました。タンザニアの食事が思ひの外口に合い、毎回美味しく食べていた私のお腹に異変が生じたのです。タンザニアのようぼくの方々は、日本から離れ現地で生活していると、おさづけを取り次ぐ機会(もしくは意思)が全くと言っていいほどなく、今回私が体調



カレーパーティーは火おこしから始まった



マテゴロ孤児院を訪問

を崩した事により、三人のようぼくの方が久しぶりにおさづけを取り次いだのです。その甲斐もあって私のお腹の調子は良くなり、タンザニアの方々も喜んでくれていました。今回のこのおさづけを通して、彼らが積極的におさづけを取り次げるようほくに一歩でも前進していただくきっかけになればこれほど嬉しい事はありません。

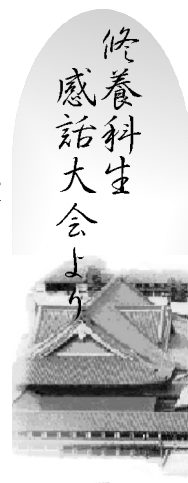
また今回の訪問では孤児院や小学校、病院を訪れるだけでなく、多くのNGOの方や国会議員、市長さんといった方々とも繋がりを持たせて頂きました。八年に及ぶ活動が、徐々にではありますが、タンザニアの地にこの

教えの道を拡げていつているのだと実感し、より奮い立たされる思いでありました。その方々はみんな国の未来の為に子供達の為に尽力されており、我々天理教にも是非力になってほしいと熱心にお話下さいました。お金の支援ではなく、子供達の教育に必要な制服であったり、文房具、また生きていく糧となる仕事の技術や、使わなくなった道具の支援を必要とされてきました。

今、笠岡大教会では衣料支援は一旦休止となつていますが、どうにか必要としている人々に必要とされている物資を僅かでも良いので届けてあげられないだろうか、その為に私達に何が出来るのであろうか、一生懸命に思案して良い方法を模索していきたいと思えます。教祖は、立教当初、あらゆるものを貧しい人々に施し、お救いになられたと聞かせて頂いております。タンザニアではまだまだこの道はつき始めたばかりであり、今後伸び栄える御守護をお見せ頂く為にも、衣料支援は一つの手立てなのではと思わせて頂きます。

今回、タンザニアおたすけに行く機会を与えて頂いた笠岡の皆様や、活動を支えて下さる皆様に心より感謝を申

し上げます。又、タンザニアに興味を持たれた方達と、今後機会があれば御一緒させて頂くのを夢見しています。ありがとうございました。



修養科の改革で第90期から、新しい体制の元で始まった4月からの修養科にアフリカのタンザニアから天理教初の修養科生が入学した。

3か月目の感話大会で英語クラス代表としてスピーチをし、会場が盛り上がり、本部海外部報の8月号に掲載されることとなった。その内容を掲載します。(英文を修養科にて和訳されたものを掲載)

タンザニアから修養科へ

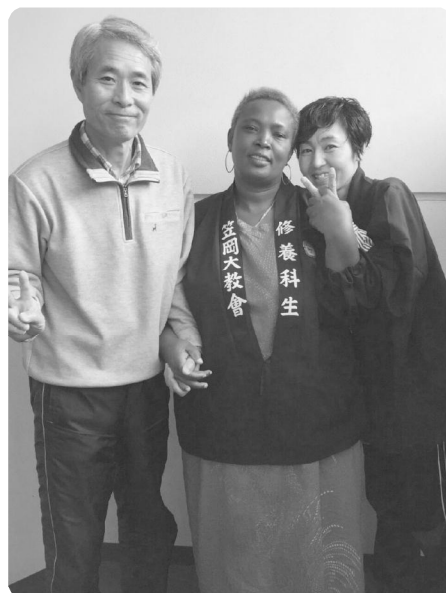
笠岡大教会 エデイナ・キヴヨ
私はエデイナ・キヴヨと言います。

タンザニアから来ました。最初にタンザニアの母国語であるスワヒリ語で「こんにちは」を言います。「ジャンボ！」

タンザニアはアフリカの東に位置する国で、インド洋に面しています。私の住んでいるところはタンザニアの北部、アルーシヤ州というところで、マサイと呼ばれる人たちが多く住んでいます。周りはンゴロンゴロ自然保護区になっていて、ライオンやアフリカ象、バッファロー、サイ、ヒョウ、ワニなどが住んでいます。

2009年に天理教の人達がタンザニアを来訪し、ンゴロンゴロ自然保護区やセレンゲティ国立公園を見学した際、当時そこで仕事をしていた私の妹と出会い、そこでまず私の妹が天理教の事を知りました。

そして妹は私に連絡をとり、私の地元であるアルーシヤに翌年志郎先生たちが来た際、私は初めて天理教の人に会いました。そこで、以前手術を受けたものの、まだ痛みの残る胆石におさづけを取り次いで頂き、御守護を頂戴したのをきっかけに入信しました。その後、先生のお誘いでおちばに帰り、別席を六席運ばせて頂きました。その2年後にまたお誘いを受け、おちば帰りの準備をするために日本大使館へビザの申請に向かう途中に転倒し、右の手首を骨折してしまったので、お



(タンザニア出身、
6月27日英語修養科生修了)

どばがえりをキャンセルせざるを得ませんでした。手術を受けたものの、ドクターから元通りに戻るかどうか分からない、と伝えられ、とても心配になり先生に連絡を取ったら「心配はいらない。おやさまが側にいらつしやるから、御守護下さるから信じなさい」とアドバイスしてくれたので、おやさまを信じることにしました。

その翌年先生がタンザニアにやってきました、おさづけを取り次いでくださいました。お蔭で手首は元に戻り、信じることの大切さを学びました。先生のお導きで私の人生は変わりました。そして昨年、笠岡大教会より先生と数人がタンザニアに来られた際、先生の奥様が私を修養科を勧めてくれていたと聞かされました。

そこで修養科に入学するためにビザの事や留守中の家族の事を含め、何ヶ月もかけ準備をすることになりました。

修養科を受講するために3月の末におちばに帰らせて頂きましたが、長旅の疲れと気候

の違いから体調を崩し寝込んでしまいました。そうしたことからホームシックになってしまい、タンザニアに帰りたいと口にしてしまいましたが、タンザニアで待つ人たちにおやさまの教えを持ち帰る、という使命を思い出し、心を入れ替えて修養生活に臨むことにしました。

わたしの母国では、自分や自分の家族の事を第一に考えるのが普通で、特に修養科を受講する前は、私は自分身のこととで精一杯だったので、「ひとのために何かをさせていただく」という概念は知りませんでしたし、そうしたことをすることはありませんでした。修養が始まり、授業やクラスメートを通じて、周りに目を配り、人のために祈るということを学び、今では周

囲に心を配り、悩める人の胸の内に耳を傾けることや、人のためお祈りをさげるということを自分でも実践するようになりました。

タンザニアでは一年を通して日の出は午前6時頃です。ですから、それ以前に起床することは初めての体験で、早起きは本当に大変でしたが、今となつては午前3時半に起床することも苦にならなくなりました。早起きすることによつて、神様に時間の御供えをさせてもらえることに気づき、そこから御守護を頂けることを学びました。

この三ヶ月の修養生活で、神様の事を第一に考えることの大切さを教えて頂き、またひのきしんの大切さを学びました。おつとめはまったく出来ませんでした。おつとめは一生懸命がんばるうちにすこしずつではありますが、おてふりもできるようになってきました。こうして修養科で吸収したことを母国タンザニアではこの教えを必要としている人がたくさんいます。私は「人をたすけて我が身助かる」の教えが特に好きで、おさづけの理を頂戴したら、タンザニアで病気に苦しむ人たちに一人でも多くおさづけを取り次いでおたすけに励み、そして、そうした方々にこの

天理教の教えについて話をしたいと思つていきます。

修養科で沢山のことを学ばせて頂き、終了して帰国したら、私の人生は新しいものとなり、教えを基にした日々を歩むことになるでしょう。母国に帰ってから現地の人たちにお道のお話をするのが楽しみです。そして母国タンザニアで一人でも多くの人に信仰を伝え、人のために尽くす喜びを広げていきたいと思つています。そのためにも、これからも教理をしつかりと勉強させてもらいたいです。親神様、おやさま、本当にありがとうございます。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていましてので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽7月10日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

三日ほど畑に行かれぬ日があり

さやえんどうが膨らみており

▽7月17日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

一川に影を映して合歡の花

▼表紙写真 (ひろさと分教会提供)

立教百七十九年 六月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おとめ				地 方	役割 区分	講 話	祭 主	扨 者							
									てをどり	おとめ	をどり	おとめ												
上原順子	今川佐智子	虫明好美	中村義太郎	笹尾正治	森本忠平	岡崎真一	谷内伸自	杉原博之	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	高木昭祥	三島渉	佐藤道孝	谷内伸自	大教会長様	杉原博之	吉岡誠一郎			
横山小智榮	内海安子	佐藤香苗	上原志郎	山田敏教	上原繁次	吉岡誠一郎	横山逸郎	内海史郎	中村初美	門脇加津	武内正美	中村道徳	中島誠治	中村邦義	浅野明教	今川昌彦	田中隆之	八月講話	指図方	賛 者	赤木素志	内海史郎	上原繁道	
森本富美子	吉岡八恵	岡崎豊子	赤木素志	佐藤真孝	田林久嗣	高木昭祥	渡邊隆夫	浅野明教	岡崎和子	高木孝子	谷内美知子	上原真浩	岡崎真一	門脇元教	虫明立生	山野弘実	中村剛	後 半	管 尾 正 治					

第905期修養科募集要項

* 修養科期間

立教179年9月1日～11月27日

* 教 養 掛

- 3ヶ月間 田中隆之 (大教会役員・福山分教会長)
- 1ヶ月目 竹本和道 (福芦分教会長)
- 2ヶ月目 西村彦一 (瑞雲分教会前会長)
- 3ヶ月目 藤本芳久 (東水島分教会長)

* 募集要項

- ・ 志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 9月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日午前10時に解散。

熊本地震募金について

4月14日に発生した熊本を中心とした地震に際しまして、笠岡大教会として何かさせて頂こうと声をかけさせて頂きましたところ、4月27日までに大教会に集まった救援物資をマイクロバスで届けさせて頂くことが出来ました。

また地震以来、募金のお願いをさせて頂いたところ、21万1542円が集まり、そのうち、現地で不足していた野菜や果物等の購入に8万5159円を使わせていただき、残りの12万6383円を第1回目として5月初旬に本部救援募金に届けさせて頂きました。

本部への募金が6月末までと限定されていたことから、大教会として6月21日を締切としてさせて頂きましたところ、第2回目に10万8219円を6月26日付で届けさせて頂きました。多大なる心寄せを頂きました。誠にありがとうございます。

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる十全のご守護を頂いて 日々は結構に恙なく生活させていただいております 中でも今は植物の成長に欠かせない水のご守護である梅雨の季節をお与え下さっておりますことは誠に有難く勿体ない極みでございます 只集中豪雨により被害が出ている事は残念でなりません 私共は常に親神様の十全のご守護お働きを感じ 御恩報じの気持ちを中心に湛えて 朝夕に御礼申し上げつつ つとめときづけを通してたすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中にも今日の吉日は此の笠岡大教会の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心たすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めて六月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭も済んで少しホッとしているところもありますが 年祭は済んでも身上事情で苦しんでいる人が減ったわけではなく 病院の充実で身上は安心でもむしろ心は多くの不安を抱えている人は増えておりますので 年祭の年に当たり教祖の一系列子供を助けたいとの心を我が心として より一層たすけ一条に邁進させて頂く所存でございます 又次の塚を目指すには道の後継者を育てることも急務でございます 教祖百三十年祭子供おぢばがえりには一人でも多くの子供に声掛け連れ帰り 親の息を掛けて頂き育てのきっかけをお与え頂けるよう努め切らせて頂く所存でございます

何卒親神様には 年祭の年だからこそ教祖にお喜び頂きたいとたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り頂きまして 願う心の誠の理に自由のご守護を賜り一人でも多くの人が親神様のご守護を感じ御恩報じを願う人が弥増して お望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますようお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

II 世話人 II

立教179年5月29日付

照陽	吸江	東悠	海松ヶ岡	呉照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
谷内	佐藤	谷内	上原	田中	大教会	吉岡	門脇	門脇	門脇	佐藤	田中	上原	谷内	吉岡	上原	佐藤	大教会	上原
伸自	道孝	伸自	繁道	隆之	奥様	岡壽	元教	元教	元教	道孝	隆之	明勇	伸自	壽道	繁道	道孝	奥様	明勇

熊谷	いわき	依佐美	高千恵	笠晴	錦備	美之郷	神昭	備中	湯田	葦陽	油木	驛家	島中	服部	東城	府中市	上野	明石市
岡崎	上原	上原	上原	中村	大教会	中村	上原	中村	佐藤	田中	上原	大教会	中村	中村	中村	上原	佐藤	吉岡
真一	繁道	志郎	志郎	剛	奥様	剛	繁道	邦義	道孝	隆之	剛	道	奥様	邦義	剛	道孝	壽	壽

II 教会指令 II

◎神殿建築願

東城 分教会

☆鎮座祭 立教179年12月10日

☆奉告祭 立教179年12月11日

立教179年6月26日承認

◎第九〇〇期修養科

自 立教179年4月1日

至 立教179年6月27日

*修了者

笠岡 エディナ・キヴヨ



先日、バイト先で質問された話題に、「スイカは果物？ 野菜？」というのがあった。一瞬、答えることが出来ずに考えていたが調べてみると、立場や分類によってスイカは野菜になったり果物になったりするようである。スイカ本人からして見ればどっちでもいい。

よ、ほつといってくれというでしょうが、どっちだと言われても、人間は一つの分類に決めることが出来ない性質を持つているようですね。

また参議院選挙が7月10日に行われたが、その一つの焦点として憲法改正を安倍政権下で行えるかが問われた。

70年前に大勢の犠牲のもとに不戦の誓いをした憲法が時代の変化とともに揺らいでいるのである。本当の平和を求めらるならどうしたらいいのかという議論は人や立場が違っていると、こうも違うのかと思われられる今日。考えてみれば人類というのはこの地球上で真実の兄弟として存在しているのに、一時として一つになったことは無い。時代は大きな潮目に皆、流されようとしている気がする。先人の先生はどうやって激動の時代を通してこられたのか... 思いめぐらせる日々だ。

にちにちにはやくつとめをせきこめよ
いかなるなんもみなのがれるで
とおつとめの真髓に近づいていきたい。
(ほ)

